

開講科目名 Course	財務会計論研究 (B) / Financial Accounting (B)
時間割コード Course Code	13530
開講所属 Course Offered by	会計学研究科博士前期課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2021年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	月 / Mon 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	佐藤 豊和
科目区分 Course Group	基幹科目
教室 Classroom	
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	佐藤 豊和 (経営学部)
授業の目標	

授業の概要	<p>【授業の目標】</p> <p>職業会計人が財務諸表の作成あるいは分析に必要な、財務諸表に関する普遍的な知識とそれらを基礎とした応用能力を会得することを目標とする。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>財務諸表とは、企業等が行う経済活動（すなわち事実関係）を、会計システムを通じて数値によって表現された報告書の形態（すなわち数関係）に写像したものである。企業等の経済活動は21世紀に入ってから、その範囲の拡大あるいは複雑化の一途をたどるばかりであり、これに伴う会計ルールの変更も多岐にわたっている。ただし、それらはあくまでも普遍的な会計ルールの上に成り立っているものであり、伝統的な会計基礎理論に立脚しないところでは決して理解できないものである。</p> <p>本講義では、財務会計の中核たる財務諸表の作成あるいは分析に係る会計基礎理論の理解を通じて、現代のめまぐるしく変わる財務諸表関連ルールを体系的に捉え、また理解するための理論的基礎を磐石とする。</p> <p>なお、前期開講の財務会計論研究（A）では、財務会計を主に理論的側面から捉えた総論を、後期開講の財務会計論研究（B）では、財務諸表上の科目ごとにそれらを主に具体的な会計実務処理の側面から捉える各論として講義する。（A）と（B）は互いに関連しており、連続して受講することが望ましい。</p> <p>【授業の内容】</p> <p>桜井久勝教授の基本書「財務会計講義」の最新版をベースとして、以下のように講義する（なお、同書に記載されていない最新の会計理論および実務の動向あるいは派生的な事項等については、随時レジュメ等で補完する）。また、受講にあたっては、会計法規集（2019年3月までの改正等）に対応しているものを携行すること。</p> <p>（財務会計論各論）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現金預金と有価証券 2 売上高と売上債権 3 棚卸資産と売上原価（その1 取得原価の決定） 4 棚卸資産と売上原価（その2 期末評価と費用配分） 5 有形固定資産と減価償却（その1 取得原価の決定） 6 有形固定資産と減価償却（その2 償却方法と期末評価） 7 無形固定資産と繰延資産 8 負債 9 株主資本と純資産（その1 純資産の構成） 10 株主資本と純資産（その2 組織再編） 11 財務諸表の作成と公開（その1 財務諸表の体系） 12 財務諸表の作成と公開（その2 財務諸表の公表制度） 13 連結財務諸表 14 外貨建取引等の換算 15 まとめ <p>【質問への対応】</p> <p>オフィスアワーもしくは授業の開始前、終了後またはメールなどで随時対応する。</p> <p>【評価方法】</p> <p>授業内での状況（発言、随時行う小テスト、レポート等）で総合的に評価する。期末試験およびレポートは実施しない。</p>
評価方法	
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	
授業計画	
テキスト	桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社）の最新版。2021年1月時点では21版が最新ですが改訂の可能性があります。書店などで同書の最新版（つまり21版あるいは、2021年4月時点で22版が刊行されていれば22版、のいずれか）を各自入手して毎回持参してください。
参考書	「新版 会計法規集（第11版）」（中央経済社 2019年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	

担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	
フィードバックの方法	
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	
使用言語	
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	